4

誰一人取り残さない社会の実現に向けて

～ SDGs の社会的側面の取り組みについて～

千葉大学は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、ダイバーシティ、障害のある方の雇用、情報セキュリティの確保のほか、様々な教育・研究活動と学生活動により社会的分野の取り組みを進めています。

p.52　大学における社会的な取り組み
p.54　学生活動における社会的な取り組み

大学における社会的な取り組み

千葉大学では SDGs 達成に貢献する様々な活動を推進しています。

ダイバーシティ※推進の取り組み

女性専用休憩室

千葉大学ダイバーシティ推進部門は、教職員や学生の仕事や研究と家庭生活の両立を支援することを目的に、専任アドバイザーによる不妊治療・妊娠・育児と仕事の両立等をはじめとした総合相談を行っています。そのほか、女性専用休憩室を設置し、育児やワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ理解促進に関連する図書の貸出、病児ケア勉強会の開催等を実施しています。制度の活用をもとにした教職員のワーク・ライフ・バランス支援のみならず、意識改革の推進にも取り組んでいます。

これまでに、子育て中の教職員を対象としたベビーシッター利用料金の一部補助、妊娠・育児・介護等により研究の継続が困難な教員に対する研究支援要員の配置、女性教員の少ない理工農学系分野への女性教員採用促進等を行ってきました。その結果、2007 年度に 16％だった女性教員比率は 2023 年４月には 23.5％へ、事務系職員の女性比率も 27％から 50.8％へと増加しました。なお、全労働者に占める女性の割合は 57.0％、管理職に占める割合は 20.8％です。

2020 年度からは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (先端型)」に選定され、若手研究者や女性研究者のグローバルな研究活動を促進する支援制度を実施しています。取り組みの一環として、研究リーダーとして活躍している女性研究者をロールモデルとして紹介する「研究者ロールモデル集　Progress」vol.1,2 を 2022 年に発行しました。ロールモデル集の中から講師を招いて交流会も開催し、参加者の皆様の好評を得ています。ロールモデル集は以下のウェブサイトで研究者へのインタビュー動画と共に公開しています。

ロールモデル集の表紙

https://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/diversity2020/rolemodel/

このほかに 2022 年は、ダイバーシティ理解促進の一環として、国際ゲイカップルの YouTuber としても活躍する講師を迎えた LGBTQ ＋セミナーや、難病とともに生きる研究者の人生を描いた映画「ALS（筋萎縮性側索硬化症）になった教員が示す『生き方の多様性』－ 7lives 7lakes －」の上映会を開催しました。千葉大学では、すべての人々のダイバーシティを尊重するために、偏見や差別につながる意識改革を進め、誰もが個性や能力を発揮し、活躍できる環境の実現を目指しています。

誰もが過ごしやすいキャンパスを目指し、ジェンダーフリートイレを完備

個室で完結する仕様

2021 年に開設した墨田サテライトキャンパスは、建物の２階にジェンダーフリートイレを設置しています。これは、「建物全体を実証実験空間とし、生活のすべてをシミュレートする」というコンセプトのもと、利用状況を把握するとともに多様性に配慮した空間のあり方を見出すための実証的試みの一環です。このトイレはすべて個室で完結する設計となっている他、トイレの入り口で空き状況を確認できるシステムを導入しており、セクシャルマイノリティの方にも気兼ねなく利用していただくことができるようになっています。

※　ダイバーシティ：多様性という意味で、国籍、性別、年齢などにこだわらず、さまざまな人材を登用し、多様な働き方を受容していこうという考え方のこと。

生活が困窮する学生を支援

食料提供の様子

2022 年度は千葉大学修学支援基金に対し、卒業生、保護者、教職員、法人等のみなさまより 1,500 万円を超える支援をいただき、学生への経済支援や、留学支援、就職活動支援、課外活動支援などを実施することができました。

また、2022 年 7 月 15 日には、生活協同組合コープみらい（本部：埼玉県さいたま市）と千葉大学基金支援事業のもと、コロナ禍で生活に困難を強いられている学生の応援を目的に、千葉大学の学生へ千葉県産米 700 袋、食品 700 人分が提供されました。この取り組みは、コープみらいが行っているコロナ禍で困難を強いられている生活困窮者への支援と日本の米づくりの応援を目的とした米の寄贈の一環として、千葉大学に学生への寄贈を申し出たことから協働の取り組みをして実現したものです。西千葉キャンパス松韻会館にてセレモニーが開催され、抽選により対象となった日本人学生 653 名、留学生 47 名に対して支援が行われました。

障害者雇用の取り組み

清掃業務の様子

すべての事業主は、「社会連帯の理念」に基づき「共同の責務」として、事業主区分ごとに定められた法定雇用率以上の割合で障害者を雇用することが「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定められています。本学においても、この責務を果たすとともに、常にクリーンなキャンパスを維持することで大学のイメージアップとなるように、障害者の方々にキャンパスの清掃業務を担っていただく教育環境整備グループを設置し、学内の主要道路の落ち葉やゴミの清掃などを行っています。スタッフは様々な障害を抱えていますが、キャンパスの清掃業務にやりがいを感じており、障害による差異はあっても、清掃業者に依頼した場合と同じ水準の結果を残すことを就業ポリシーとして掲げています。また、障害のある方が同じキャンパスで当たり前に働いていることは、学生や教職員の意識改革にもつながり、共に働く社会づくりの一助になると考えています。2023 年 6 月時点で、西千葉・亥鼻・松戸地区で合計 36 名 (重度障害換算後 53 名分) の障害者の方々が勤務しています。本学の障害者雇用数は法定雇用率を達成している状況にありますが、引き続き、公共職業安定所や障害者就業支援センターなどと連携し、障害者と共に働く環境づくりをさらに推進していきたいと考えています。

キャリア支援カフェ「BiZCAFE」オープン

「BiZCAFE」外観

学生が企業や省庁の採用担当者と気軽に交流できるキャリア支援カフェ『BiZCAFE（ビズカフェ）』が、12 月に西千葉キャンパス IMO 棟 2 にオープンしました。『BiZCAFE』では、学生と採用担当者が日常的にコミュニケーションできる「Meetup」が開催されており、企業や業界の情報収集や、就職活動・キャリアの相談をすることができるほか、ビジネス現場のリアルな課題や事例をもとにしたディスカッションやワークショップを通じて、考える・体験する「BiZCLASS」では、採用担当者や参加学生と一緒に考える、意見を交わすことで、仕事をより身近に感じることや、仕事への理解を深めることができます。

『BiZCAFE』は、千葉大生の店長・店員を中心に学生のみで運営されており、ドリンクや無料 Wi-Fi、コンセント等のカフェサービスが、学生から学生へ提供されているほか、イベントの運営サポートも千葉大学生が行っています。総合大学ならではの多様な進路選択を支え、それを学生同士が作り上げていく、新たなキャリア支援サービスである『BiZCAFE』は、オープン以来、様々な学部・研究科の学生に活用されています。

学生活動における社会的な取り組み

千葉大学ではさまざまな学生団体やサークルが、SDGs 達成に貢献する社会的な取り組みを推進しています。

児童向けにフェアトレードと児童労働に関する授業を実施

授業の様子

普遍教育科目の「グローバルボランティア」は、国内だけでなく海外にも視点を広げ、日本がどのように世界と繋がっているのかを意識し、海外と日本の問題が分けて考えられていることを「私たちの問題」と捉え直すことを目的とした授業です。2022年度のプログラムのひとつである「フェアトレードちば」のチームは、教育学部附属小学校の帰国学級の児童にフェアトレードと児童労働に関する授業を行いました。授業を実施するにあたり、フェアトレードチームの一人ひとりがフェアトレードと児童労働の関係などを調査、勉強し、児童労働が抱える大きな問題を再確認しました。実際の授業では、児童が理解しやすいように、児童労働に関するカードゲームを用いてフェアトレードや児童労働のことを説明しました。児童同士の会話や児童からの感想を通して気付くことが多く、児童労働やフェアトレードに関して更に知りたいと思いました。私たちが学ぶだけでなく、誰かに伝えることの重要さを実感出来る貴重な時間となりました。

先進国と途上国で食事を分かち合う TABLE FOR TWO

削りイチゴ

Fabric は TABLE FOR TWO（以下 TFT）の理念に賛同し、千葉大学で活動しているサークルです。TFT は直訳すると「二人のための食卓」となりますが、「先進国の人々と開発途上国の子どもたちが食事を分かち合う」というコンセプトがあります。食の不均衡を解消し、世界中の人々の健康を改善することを目指します。Fabric では千葉大生協と連携したヘルシーかつボリュームのあるメニューの考案・提供を行い、売上げのうち一食につき 10 円を開発途上国に寄付しています。また、例年、大学祭では削りイチゴを販売し、売上げの一部を寄付しています。他大学との交流も積極的に深め、情報共有や TFT の推進活動にも力を入れています。

手話サークル　ウルトラマンの会

卒業式での手話通訳の様子

ウルトラマンの会は、耳の聞こえない人とのコミュニケーション手段の１つである手話で日常会話ができるよう、単語などを中心に勉強しています。大学入学後に手話を学び始めた初心者が多いので、自己紹介や都道府県などから勉強をスタートさせていきますが、地域の聴覚障害者の方などから手話を学ぶこともあります。普段の活動では、手話を使ったゲームで手話に親しんでいます。さらに、サークルで学んだことを活かして手話検定の取得に挑戦する学生もいます。毎年、入学式や卒業式などの式典では、壇上で通訳を行っています。大学祭では手話コーラスに取り組み、手話に対する理解を深められるよう努力しています。また、近隣の小学校に手話を教えに行ったり、他大学の手話サークルとも交流会を行ったりするなど、大学外部と関わることも多いです。

編集担当：楳澤勇希（工学部３年）、大島三和（国際教養学部３年）

学生による学生支援とボランティア活動団体「ふれあいの環」

ふれあいの環は活動趣旨の違う６つの団体で構成され、学生による学生支援活動（ピアサポート）やボランティア活動をはじめ、さまざまな活動を行っています。2022 年度はコロナウイルスに関連する様々な規制が緩和され、ふれあいの環の多くの所属学生にとって馴染みのないコロナ禍以前の活動形態への移行が求められる中、各団体が工夫して充実した活動を行いました。

ノートテイク会（聴覚障がい者支援）

講義に同席し、教員の話や周りの音を文字にして見せる情報保障※によって、聴覚障害を持つ学生を支援しています。入学式や卒業式などでの字幕通訳も行っています。

チャレンジドサポートみのり（身体障がい者支援）

身体に障害を持つ学生が、有意義な学生生活を送れるように、車椅子使用者の移動や授業参加の支援、学生生活の相談、健常者の障害の理解促進活動、学内バリアフリーマップの作成などを目標に、活動を計画しています。

C-vol（ボランティア支援）

学生のボランティア活動を支援するために情報発信したり、自らボランティア活動に参加したりしています。また、イベントを企画・運営し、地域での教育・地域住民交流の場、ボランティア活動参加へのきっかけづくりにも力を入れています。例えば、小学生向けの防災教育イベント「ちばシティサバイバルキャンプ」、大学構内の清掃とキャンパスツアーを掛け合わせた「キャンパスクリーンツアー」があります。また、稲毛区役所主催の「いなげボッチャカップ」に運営ボランティア兼選手として参加したり、近隣の小学校や少年自然の家のイベントに参加したりするなど、地域との交流も大切に、大学内外で幅広い活動を行っています。

キャンプでの牛乳パックランタン作りの様子

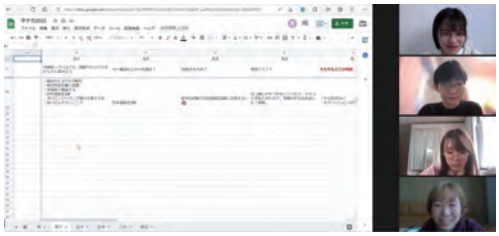
CISG（留学生支援）

留学生の学生生活の支援や、留学生同士や日本人学生との交流を促進するため、定例の日本人学生との交流会の他に新入留学生の入寮サポートや Universal Festival という留学生の母国の文化紹介をするイベントの開催、大学祭での留学生屋台の手伝いなど、様々なイベントを行っています。

Universal Festival 終了後の様子

career port(キャリア支援)

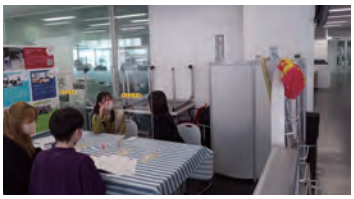
大学生の間に自己のキャリアを考え、社会に出てから役立つスキルを身に着けることができる機会を提供する活動をしています。具体的には午前中から活動的に過ごすための朝活イベント「朝チバ !」、正しく努力する習慣と思考を身に着ける「学チカ会」、ビジネススキルや知識を身に着けるためのビジネスコンテストへの参加、就活生を主な対象としたキャリア支援のイベントや人気の自己啓発本を扱った読書会などを行っています。



ガクチカ会の様子

GCAP（学生コミュニティ支援）

高校までと違う環境に不安を感じている学生のために、学部・学年を超えたつながりの場を作り、交流することのできる環境を提供しています。具体的には、新入生の大学生活に関する疑問や不安などを解決する新入生サポート会や、学生同士が様々な話題について話し合うカタリベカフェを行っています。



新入生サポート会の様子

※　情報保障：身体的なハンディキャップにより情報を収集することができない方に対し、代替手段を用いて情報を提供すること

信太郁美（法政経学部３年）、梅田あかり（教育学部３年）、飛田芽依（文学部２年）

企業と連携した人権に関する活動

環境 ISO 学生委員会では、株式会社 ZOZO との協同プロジェクトの一環として、「ファッション×ダイバーシティ」や「ファッション×人権」というテーマでの活動を展開しています。ダイバーシティを考えた班では、外国に繋がる方々が日本での服装に関して感じていることを知るため、千葉大学の留学生にアンケートを取りました。また、別の班では、「千葉市を LGBTQ ＋フレンドリーな街に」したいと考え、活動しています。人権をテーマにした班では、人権に配慮した活動に取り組んでいるファッション企業やブランド、衣類などを扱うフェアトレード関連団体に取材しようと考え計画しています。

活動の様子

シニア層向けにフレイル予防と地震対策の啓発活動

環境 ISO 学生委員会は、フレイル予防と地震防災を呼びかけるパンフレットと動画を作成しました。フレイルとは、歳をとることで体や心の働きや社会的な繋がりが弱まってしまうことを指し、人口の高齢化が進む日本における課題のひとつです。また、千葉県で予想されている巨大地震は深刻な被害を及ぼすとされており、日頃の備えが重要視されています。この 2 点の内容を知って、少しでも自分事として捉えていただきたいと考え、学生らが一から作成しました。これは「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」（p.40）の一環で行われ、2023 年 6 月より完成した動画は京葉銀行の営業店で放映され、パンフレットは訪れるお客様に配布されました。

パンフレットの表紙

ぬりえ絵本とリーフレットでフェアトレードを推進

環境 ISO 学生委員会では、「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」の一環で、フェアトレード※を地域の方にわかりやすく伝え、フェアトレードの商品を選ぶ意識を高めたいという想いから、「ぬりえ絵本」と「リーフレット」を作成しました。子ども向けには児童労働を題材にフェアトレードについて、クマがウサギにわかりやすく教えてあげるストーリーの白抜き絵本をつくって配布したほか、イベントでは不用となった化粧品を再利用した絵の具で色塗りを楽しんでもらいました。大人向けには、国際フェアトレード認証や、千葉市内のフェアトレードの取り組みを行っている団体について紹介する内容の 4 ページのリーフレットを作成しました。作成にあたっては、学生が団体を取材し、インタビュー形式でまとめました。これらは、市役所や千葉中央コミュニティセンターに配架されたほか、フェアトレードに関するイベントで配布しました。また、絵本の読み聞かせ動画を制作し、2023 年度に京葉銀行の営業店のディスプレイにて放映しました。

イベントの様子

※　フェアトレード：「公平・公正な貿易」のこと。コーヒーやチョコレート、コットン製品、お茶、その他さまざまな製品の原材料の多くが生産されている発展途上国では、生産者に正当な対価が支払われなかったり、必要以上の農薬が使用され環境や健康に被害を及ぼしたりしています。そのような生産環境を改善するための取り組みが「フェアトレード」です。

編集担当：岡田雪寧（園芸学部 2 年）、鈴木ほの香（理学部 3 年）、小藤那奈子（文学部 2 年）